

平成8年1月23日

ハンディキャップのある方を助け合うために・・・

豊島区が地震防災パンフレット作成

豊島区は、地震が起きた際にその被害を最小限に食い止めるために、家庭と地域社会の心構えを載せたパンフレットを作成した。

同区はこれまでも広報紙の『防災特集号』を発行し、いつ起きてもおかしくない大地震に備え各家庭や職場で日頃の備えなどについてお知らせしているが、今回は特に高齢者世帯や、目や耳の不自由な方などハンディキャップのある方の地域社会への対応や家庭での備えなどがまとめられている。

このパンフレットはB4判程度で4頁建て。15万部作成し、すでに日刊紙(1月21日朝刊)に折り込み、12万5千部が区内の世帯に配布されている。この他、区役所、各区有施設の窓口で配布している。

1頁はハンディキャップをもつ方の困難な点を掲載。2、3頁に安全確保/日頃の備え、そのときの行動を高齢者の世帯、目の不自由な方、耳や言語の不自由な方、内部障害のある方、肢体不自由の方に向けて説明している。4頁には区で行っている対策として「緊急通報システム」、「重度身体障害者等緊急通報システム」、「聴覚障害者等緊急通報用電話ファクス」等についてお知らせしている。

防災課職員は「紙面の都合で、今回は基本的なことだけにとどまっていますが、次回はそれぞれの状況にあったもう少し具体的な対応がお知らせできればと考えています」

詳細 災害対策担当部防災課